

## 親用稚アユを飼育中

県内河川への放流用アユ種苗は、県が（一財）神奈川県内水面漁業振興会に委託して内水面種苗生産施設において生産しています。内水面試験場では、アユの親魚を養成し、アユ種苗生産に必要な発眼卵を同振興会に供給するとともに技術的な指導を行っています。

放流する種苗は、より天然に近い種苗を放流して欲しいとの要望から継代数が少ない1～2世代目（F 1～F 2<sup>\*</sup>）を親に用い、2～3世代目（F 2～F 3<sup>\*</sup>）を放流種苗として生産しています。

4月現在、昨年10月に天然アユ（F 0<sup>\*</sup>）から採卵した稚アユ（F 1<sup>\*</sup>）を飼育中で、大きいものでは5 g程度になっています。これを9～10月までに80 g程度まで育て、採卵受精した2世代目（F 2<sup>\*</sup>）の発眼卵を、同振興会へ供給する予定です。



図1：シラスアユ（F 1）



図2：稚アユ（F 1）

まだ表皮に色素が少なく透明



図3：餌（配合飼料）に群がる稚アユ

\*天然のアユをF 0とし、これを親として、採卵受精し育てた世代交代数が1回の種苗をF 1といいます。数字は世代交代の回数です。